

## 「寄り道 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

私は小学生の時、京王線の平山城址公園駅から府中駅まで電車で通学していた。



当時の平山城址公園駅は、粗末な（仮設のような）粗末な駅舎で、自動券売機すらない駅だった。3年生ぐらいまでは、「真面目に」通学していたが、だんだん悪くなっていき、特に帰り道は「寄り道」をするようになった。最初の「寄り道」は、府中駅前にあった、大きなバスの車庫だった。その2階が倉庫になっていて、古い切符や定期券が山積みになっていた。倉庫の人に言うと、いくらでももらえたのだ。府中駅前の屋台の甘栗屋さんとも仲良くなって、時々「つまみ食い」もさせてもらった。



当時の京王線には、緑色の各駅停車と、白い急行・特急電車が走っていた。私が乗る駅は各駅しか停まら

ないのだが、途中まで特急に乗ってみたい、終点の京王八王子まで行って、各駅で折り返してみたいと、「電車の寄り道」が始まった。また、定期券通学なので、途中の駅で降りる「技」も身につけ始めた。中でも一番楽しかったのは、一つ手前の「南平駅」で下車して、「下校自由研究」をすることだった。当時の京王線沿線には、田んぼや雑木林が多く、小学生の男の子にとっては、昆虫や小動物の採取には事欠かない環境だったのだ。府中の学校から自宅まで、まっすぐ帰宅すれば40分ほどだったが、平均1時間半ぐらいかかっていたような気がする。



今の本校の子どもたちはどうだろう？時々「登下校パトロール」ということで、教員が学校内外の通学路を監視することがある。先日の登校時に、子どもたちの様子を観察していて、「寄り道」に出くわした。



大学の南門の近くに、子どもたちの「人だかり」ができています。何か路面にいるらしい。学年ミックスで、10人以上の子どもたちが取り囲んでいる。「何これ、キモイ！」「ミミズが死んでる！」「アリ？アリだ！！」どうやら、ミミズにアリがたかっているようだ。